

## 「生きる力」をはぐくむ評価のあり方

### I 研究の内容

#### 1 研究の経緯

これまでの研究を振り返ると、2009年度は、国語科において単元を通して1枚ポートフォリオを用い、読み取りの深まりや気持ちの変化を見取っていった。2010年度は、道徳の授業を通じて研究を行い、学習前・学習後において、児童の道徳的価値の高まりや心の変化を見取ることができた。2011年度は1枚ポートフォリオの作成・活用の仕方をさらに研究しながら、生活科や社会科の授業を通じて検証を行い、表現する力が伸びたり、理解が深まったりすることを見取ることができた。そして、2012年度は、さらに教科を広げて算数科・理科で研究を進めた。1枚ポートフォリオから児童の実態をつかみ、児童の学習意欲向上をめざして取り組んできたが、1枚ポートフォリオを振り返ったり、児童相互に交流したりすることで、自己肯定感が高められ、学習意欲向上にも効果が出てくることが確認できた。

そして、2013年度は1枚ポートフォリオ評価法に焦点を当てた6年目として、国語科と道徳で授業を行った。1枚ポートフォリオを活用することで、子どもの学びの足跡を子ども自身が振り返ることができ、それが意欲の向上や自己の成長の実感につながった。また、子どもが学習の最初と最後でどう変わったかの変容や、子どもの考え方やとらえ方を見取って評価に生かすことなどができ、さらに研究が深まった。一方、2014年度に出された「評価する際の指標となる言葉」や「PDCAのサイクルに1枚ポートフォリオがどう関わっているか」については、今後も課題の一つとして捉え研究していく。

さらに、昨年度は、これまでの研究の成果を生かしながら、いろいろなポートフォリオについての研究（1枚ポートフォリオにこだわらず、いろいろな形のものを使って評価していく。子どもの実態、学年、教師の思いなどによって柔軟に変えていく）や、評価した後の子どもの変容も続けて見ていく、といった視点にも重きを置きながら研究を進めた。

#### 2 研究主題について

変化の激しい実社会を主体的に力強く生きていく力を培うという観点から、近年子ども達に求められている力が、「生きる力」（確かな学力・豊かな人間性・健やかな体）である。学習指導要領においても、「児童に生きる力をはぐくむことをめざし、創意工夫した特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」と示されている。そこで、各学校における児童生徒や地域の実態に応じた教育課程の編成・実施とそれに伴う指導法の工夫が必要になっている。

また、「児童の良い点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」と評価についての考え

が示されている。このことから、「生きる力」特に「確かな学力」の定着を考える時、わたしたち教師の指導を振り返り改善することと、適切な評価と支援により児童の学ぶ意欲を高めることは、きわめて重要である。

2020年度から実施される新学習指導要領では、これまで以上に児童生徒の主体的・協働的な学びが求められている。「アクティブラーニング」という言葉で象徴され、課題解決学習、体験学習、発見学習等の児童生徒が自ら課題を見つけ、解決方法を決め、基礎的な知識を活用して問題解決していくことが必要になる。

このような流れの中で、わたしたち教師も児童生徒の学びをどう評価していくかを考えなければならない。児童生徒の主体的・協働的な学習形態には、調査結果や制作物等の多くの成果物がある。近年、提示されているパフォーマンス評価は、このような主体的な児童生徒の学習を評価していく事になる。パフォーマンス評価には、これまで研究してきた1枚ポートフォリオ評価も含まれ、研究を継続していくことが、学習指導要領改訂を見据えた教育評価につながっていくと考える。

日常行っている評価を見直し、児童の学び・変容を丁寧に見取り、具体的・積極的な評価を行うことで次の学習活動への意欲を高め、確かな学力の定着を一層図っていきたいと考える。このような理由から、今年度の研究主題を設定した。

### 3 研究授業

- ① 第1学年 生活科 「もっとしりたいな せんせいのこと」
- ② 第1学年 音楽科 「おとをあわせてたのしもう」

## II 成果と課題

### 1 成果

- ・部会の構成員が入れ替わり、多くの新しい先生方の考えが入り、研究会が活性化された。
- ・助言者の先生も多くなり、最新の教育関係の指導をしていただくことができた。
- ・ポートフォリオ評価を取り入れた1年生の実践ができた。
- ・毎年の研究の積み重ねが大変有効で、実践するときにも大いに活用することができる。
- ・臨地研修会を実施することができ、研究会が充実した。
- ・一枚ポートフォリオを活用することで、児童がどこまで理解できているか教師が把握でき、また、教師も次の授業を考えたり、修正できたりするので、非常に有効であると感じた。
- ・低学年においてもポートフォリオ評価が有効的であることが実証できた。

### 2 課題

- ・1枚ポートフォリオをどう広めていくか。一般化していくには、どのようにすればよいか。
- ・1枚ポートフォリオの有効性を改めて感じた今年度の研究であったが、教育評価という視点から、他の評価方法など研究の幅を広げていくことも考えられる。

( 部長 三枝 一哉 )